



先進環境対応トラック・バス導入加速事業 (国土交通省・経済産業省連携事業)

平成29年度予算(案)
1,000百万円(1,000百万円)

事業目的・概要等

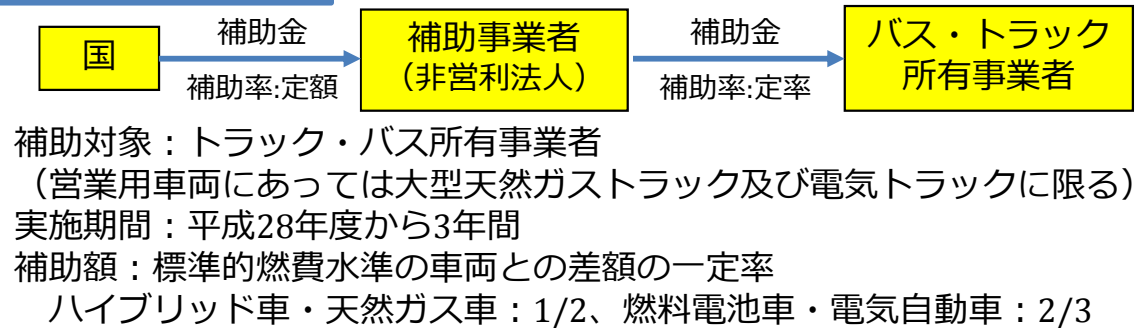
背景・目的

- 運輸部門CO2排出量の3割を占めるトラック・バス由来CO2の削減のため、将来的な温暖化対策目標の達成に不可欠となる先進環境対応トラック・バスの大量普及が必要。
- トラック・バスの各クラスにおいて最も燃費性能のよい先進環境対応車の普及初期の導入加速を支援。

事業概要

- 燃費基準をさらに一定程度上回る先端的な燃費の要件に適合した車種の導入を支援。
- 波及効果も含め、先進環境対応トラック・バスの販売台数を2020年に年62千台(総販売台数の8%)まで増加を図る。

事業スキーム



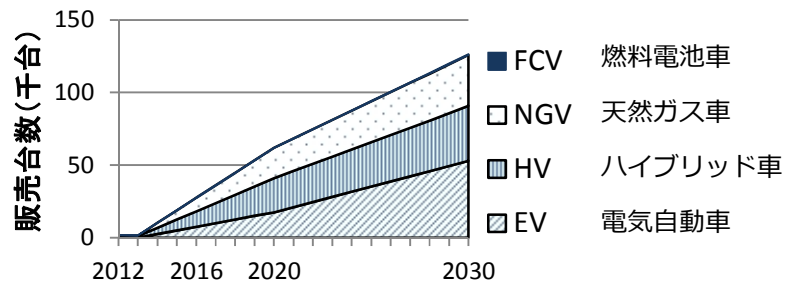
期待される効果

- 先進環境対応トラック・バス(HV、EV、CNG、FCV)の導入加速(32年度の新車販売中の比率約8%)
- 製造技術の改善や国際展開に資する。

2030年度に2013年度比26%の温室効果ガス削減を達成するためには、自動車分野において、様々な普及施策により、環境対応トラック・バス(EV、FCV、HV、CNG等天然ガス車)について下表のとおり大幅な導入増加が必要。

| 販売台数(千台) | EV | FCV | HV | 天然ガス車 |
|----------|------|-----|------|-------|
| 2012年 | 0 | 0 | 1.1 | 0.5 |
| 2020年 | 17.4 | 0 | 23.6 | 20.9 |
| 2030年 | 52.8 | 0.6 | 37.8 | 35.2 |

(平成27年度自動車由来CO2排出量削減方策検討調査の試算)



先進環境対応トラック・バスの種類

基本的にゼロエミッション車を含む、エコカー減税の最も厳しい要件と整合する種類・モデルとする。

| | 対象とする車両の環境性能* | 29年度時点で想定されるもの | |
|----|-----------------|----------------|---------------|
| | | トラック | バス |
| 大型 | 最新の燃費基準+10%程度以上 | 高速走行CNG | FCV、EV、HV、CNG |
| 中型 | 同10%程度以上 | HV | PHV、EV |
| 小型 | 同15%程度以上 | HV、EV | EV |

※燃費基準が定義されないものについては、単位走行量あたりCO2排出量により判断。



大型CNGトラック



EVバス

先進環境対応車の普及の各段階

基礎研究・基礎的
技術開発

技術開発・実証

普及初期の
先進環境対応車
導入補助

本格普及期の
先進環境対応車
導入補助

本事業は
この段階
を支援